

ベクトルと内分点2

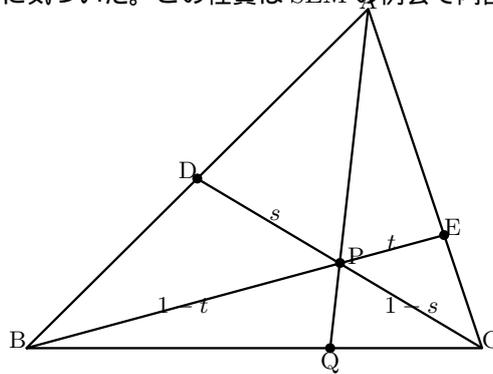
金沢光則

平成 15 年 11 月 13 日

問題

$\triangle ABC$ の2辺 AB, AC をそれぞれ $1:1, 2:1$ に内分する点をそれぞれ D, E とし、直線 BE, CD の交点を P とする。 \vec{AP} を \vec{AB}, \vec{AC} で表せ。また、直線 AP と辺 BC の交点を Q とする。このとき、比 $BQ : QC, AP : PQ$ の値を求めよ。

以前、この問題の解答方法を5つまとめた。その中の2つ目の方法の最後が少しわかりにくかったが、次の性質を使えば簡単であることに気づいた。この性質はSEMの例会で阿部先生から聞いた話である。

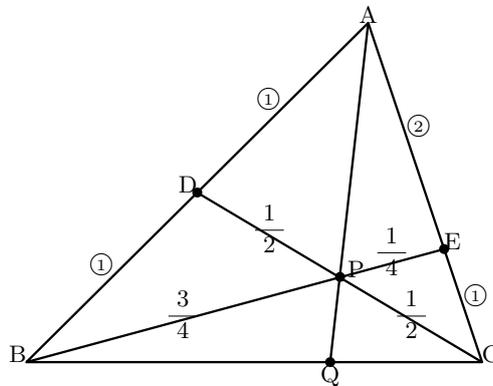


上図で、 $\vec{AP} = t\vec{AB} + s\vec{AC}$ が成り立つ。 $1:1-t$ などとする方法の計算を注意深く眺めていればわかるのだが、ここでは次のように証明する。

$\vec{AP} = x\vec{AB} + y\vec{AC} = (1-s)\vec{AD} + s\vec{AC} = *\vec{AB} + s\vec{AC}$ とみると、 \vec{AB}, \vec{AC} が一次独立ゆえ $y = s$ がわかる。

同様に、

$\vec{AP} = x\vec{AB} + y\vec{AC} = t\vec{AB} + (1-t)\vec{AE} = t\vec{AB} + *\vec{AC}$ とみると、 \vec{AB}, \vec{AC} が一次独立ゆえ $x = t$ がわかる。



$$\vec{BE} = \frac{\vec{BA} + 2\vec{BC}}{2+1} = \frac{2\vec{BD} + 2\vec{BC}}{3} = \frac{4}{3} \cdot \frac{\vec{BD} + \vec{BC}}{2} \text{ よって, } DP : PC = 1 : 1, BP : PE = 3 : 1$$

$$\text{よって, } \vec{AP} = \frac{1}{4}\vec{AB} + \frac{1}{2}\vec{AC}$$